

■児童の学力の状況

- 一昨年度の「全国学力・学習状況調査」及び一昨年度の「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、各教科において長い文章(問題文や資料)から重要な言葉を読み取り、考える力や最後まで読み切る力が十分ではないことが分かる。
- より深く考えたり、資料を読み解いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする力についても、十分に身に付いていない児童がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 基礎学力を定着させるための復習の時間や、個に応じた放課後学習の時間がなかなか取れない。
- 意見交換や、振り返りなど、自分の考えを自分の言葉でまとめ表現する活動を丁寧に行う必要がある。
- よく読み、理解し、必要な情報を整理する手法を身に付けさせる必要がある。
- 既習事項を定期的に振り返ることができる学習の機会を確保する必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 「板橋区授業スタンダード」の実施を徹底する。
- 読み解く力を身に付ける指導を実施する。
- 朝の時間には計画的に学習と読書を実施する。
- 放課後学習「ステップアップ・タイム」に継続して取り組み、個別の指導・支援を進める。
- 「学力向上推進週間」には、「ステップアップ・タイム」や朝学習の時間を活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- 「家庭学習の手引き」を作成し、保護者と協力して、児童に家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 「しみず学びのエリア」での小中一貫教育に向けて、9年間で力が身に付くよう学習規律や学び方の共通化を図る。
- 算数科の指導においては、担任と少人数担当の連携を確実にし、少人数指導の充実を図る。
- 教材開発、指導法の工夫など、日常的な授業改善に努め、分かる授業、楽しい授業を進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ○1時間の中に「INPUT」「THINK」「OUTPUT」を組み込んだ授業を意識する。 ○具体的なゴールをイメージできるめあてを設定する。 ○「伝えたい、他の人の考えを聴きたい」と思えるように相手意識を持たせて自力解決をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団解決のゴールを明確にする。 ○積極的に一問一答型の学習活動を取り入れ、共に考える力、表現する力を育成する。 ○クロームブックやミニホワイトボードを使って思考を共有し、話し合いの活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめを自分の言葉で書けるよう、振り返りの時間を十分にとる。 ○振り返りでは、学習内容に関わるキーワードを示し、めあてに即して、自分の学びを客観的に捉えられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

教員の指導力向上	ICT機器の活用	保護者・地域との連携・協働
<ul style="list-style-type: none"> ○OJTの推進、校内研究・研修の工夫をする。 ○学びのエリアでの研究授業の公開をし合う。 ○研究授業において、事前授業の参観、協議をし、研究授業の質の向上を図る。 ○研修事項の伝達を推進する。 ○板橋教育支援センターを活用する。 ○板橋アカデミーの周知と推進をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器で、学習の理解を視覚的に補助したり、学び合い・伝え合いのツールとしたりして活用する。 ○家庭学習の補助教材として、クロームブックを活用する。 ○リモート社会科見学を取り入れ、現地の声を生で聞く機会を増やす。 ○校内研究協議会のツールとして活用する。 ○家庭との連絡ツールとして活用する。 ○欠席児童や、不登校児童の学習支援ツールとして活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援地域本部を活用し、東京都統一体力テスト、水泳指導、夏季学習教室の学習補助、読書週間の読み聞かせなどの活動において、保護者や地域の方にボランティアをお願いすることにより、児童の豊かな学びの機会を確保するとともに、児童の実態や目標、課題を共有する機会にする。 ○第2学年の生活科「まちたんけん」や、第3～6学年の総合的な学習の時間の学習を通じて、地域とのつながりのある活動を展開する。

